



節分



節分とは日本の伝統的な行事の一つであり、「季節を分ける」という意味を持っています。本来は立春、立夏、立秋、立冬といった四季の変わり目の前日を指すものでしたが、江戸時代以降は特に立春の前日を意味するようになりました。これは、日本の文化と気候が春の到来を特別に祝う習慣を形成したためです。



鬼の登場に、入所者様も大喜び



ふたばよもやま話 (第二十四回)

～床屋発祥の地～

下関唐戸、亀山八幡宮わきに“床屋発祥の地、”という記念碑がある。説明によると以下のごとくである。

鎌倉時代中期、亀山天皇に仕えていた御所の武士“藤原基晴”は、宝刀紛失の責任をとって辞職、三男“采女之亮政之(うねめのすけまさゆき)”を連れて宝刀探索のため、当時蒙古襲来で風雲急を告げていた長門国下関に下った。采女之亮は、新羅人の髪結職からその技術を学び、我が国初の結髪所を開き往來の武士や金持ちを客として生計を立て、宝刀の探索を継続していた。結髪所の奥には、亀山天皇と藤原家祖先を祀る立派な床の間があり、いつとはなしに「床の間のある店」と呼ばれ、転じて「床場(場は人の集まる場所)」、さらに「床屋」という屋号で呼ばれるようになり、下関から全国へ「床屋」が広まった。

その後、采女之亮は宝刀を見つけ朝廷に奉還し、鎌倉に移り住んで京都風の結髪職として幕府から重用されたという。



職員紹介コーナー
平成29年より双葉苑に入職、同法人間の事務所勤務を経て、当施設のスタッフとして活躍しているのが福澤さんです。
福澤さんが日頃より心がけているのが、利用者様に毎日笑顔で楽しんで生活していただくことであり、そのためには職員として丁寧な対応と心配りを常に意識しながら、ショートステイ利用者様を含め、毎日自身の笑顔と元気を提供していることです。
介護は「大変できつい」というイメージがありますが、福澤さんの、何事に関しても明るく前向きに、さらにはまじめに取り組む姿勢が双葉苑の職場に浸透し、「介護の仕事は楽しい」という気風を作り、介護という仕事に魅力を感じさせてくれる存在となっています。



何事にも全力投球、かつ楽しく取り組む福澤さんは利用者様の間では人気者



今月の予定 (2月)

石橋医院回診 (毎月曜日)

3日、10日、17日

節分

3日(月)

ますゆき皮膚科回診

6日(木)

小倉北歯科回診 (毎木曜日)

6日、13日、20日、27日

ビューティヘルパー

19日(水)

生花

26日(水)

【編集雑記】▼私事で大変恐縮ですが、母が年明け、89歳の生涯を閉じた。戦争を体験した世代で、まさに利用者様と同世代だ▼東京中野で生まれた母だが、戦争の激化により九州に引き上げ、成人後は家業である理容師として家を支え、私を育ててくれた。ふたばよもやま話で紹介したように、「床屋」の歴史は古く、また人間の一番大切な頭をあたらせていただく職業として、理容師としては大変栄誉ある仕事である▼明治になり西洋から新しい理容技術が入ってきて、「理髪」という語句が生まれた。横浜山下公園近くには西洋理髪発祥の記念碑がある床屋と言われる地域と、理髪・散髪と言われる地帯があり、これを調べてみるとなかなか奥深く、興味は尽きない▼仕事一筋の母であったが、40年ほど前より、舞踊という趣味に出会い、それまで娯楽や趣味と縁のなかった母にとり、唯一の楽しみとなり、家元から準師範という資格をいただき、晩年は多くのお弟子さんに囲まれて楽しく毎日を過ごしていた▼本来健康だったが、初発はリンパガン、その後2度の脳梗塞を起こし、生命の危機もあったが、奇跡的に克服しひ孫や多くのお弟子さんに囲まれ、舞踊に仕事に情熱した日々を送っていた。そんな折、当苑にご縁ができて、散髪と手足の体操の踊りを利用者様と楽しむ場を作っていたとき、心の底から楽しみにしていた▼一昨年、再び脳梗塞を起こし、意識不明のまま目覚めることなく、一生を終えた▼同年代の利用者様との交流、さらには年上の利用者様の元気なお姿をみて、自分もがんばらなくては、というも話題に上っていた▼葬儀にあたり、双葉苑様からは立派な生花をいただき、母もさぞ恐縮していると思う。この場をお借りして施設長様並びに関係者様には深くお礼を申し上げます▼今後は利用者様に亡き父母の面影を思い浮かべながら、お付き合ひさせていただきますと思う